



江東区若洲海浜公園から見た  
2023年初日の出  
(撮影：益山龍雄副院長)

## 新年のご挨拶

東京都立東部療育センター  
院長 岩崎 裕治

二〇二三年、新年あけましておめでとうございます。一年前のこのわか草の巻頭言を読み返してみますと、「昨年明けく暮れてもコロナに翻弄された一年だったように思います。」と書いていました。その時には、来年にはコロナが落ち着いていたらいいなという希望を抱いておりましたが、期待も空しくやはり新型コロナウイルス感染症への防御・対応が引き続き必要な一年となってしまいました。中国で最初の感染が確認されてから約三年が経過し、ある程度新型コロナウイルスとの付き合い方がみえてくるのだと思っております。ワクチンや、治療薬剤なども、インフルエンザと比較するとまだまだ不十分で、なかなか同じような対応で良いとは思えない状況があります。

ご存知のように新型コロナウイルスは呼吸器系に害を及ぼすことが多く、呼吸器系に課題を持つことが多い重症心身障害児(者)にとってその感染は重大な事態を招くことが予想できます。実際当センター利用者数名が新型コロナウイルス感染により重症化しています。当センターの新型コロナウイルスへの対応方針としては、昨年と同様、まず第一に利用者への感染を防ぎ、そ

の上で当センターの事業を継続し、活動(代替的なものも含め)を進めることが重要と考えております。具体的な対応としては、定期的な必要時に臨時に開催している感染予防対策委員会、それに先立って行われるインフルエンザ検査を続けています。病棟では面会や外出も制限させていただいている中で、日中活動については、院内でも四季の喜び、暮らしの楽しみなどを感じていただけるよう、季節行事や活動を工夫して進めてきました。感染が落ち着いてきた時期には、人との接触に気を付けながらお花見を楽しんだり、バスでのドライブを計画・実施してきました。また、テイクアウト食の提供、リモート面会なども、昨年に引き続き行ってきました。今後も同様に感染防御に努めながら、生活の質も維持していけるように工夫していきたいと思っております。

さて、先日当センター運営協議会が開催されました。この運営協議会は、センターの運営にご協力・ご支援いただいている東京都医師会、江東区医師会、東京都歯科医師会、東京都薬剤師会、地域の大学病院・中核病院の院長先生、各区の障害福祉部長、児童相談所長、保健所長、特別支援学校校長、東京都福祉保健局の皆様、当センターの活動内容や実績を報告し、センター

の運営につきご意見をいただく場です。今回はその他に、現在取り組んでいる意思決定支援につき、ワーキンググループの担当者から活動の一端をご紹介させていただきました。その場でいただいたご意見を参考に今後の事業実施に取り組みしていきたいと考えております。話は変わりますが、先日皆既月食をみることができました。天王星食と同時に起きたのですが、星食と同時に起きるのは四四二年ぶりだとのこと。空を見上げたり写真を撮っていただきたのかなと思ってお見上げたら月食でした。少し得をした気分が家に帰りました。

さて、今年はどうなるのでしょうか。新型コロナウイルス感染が鎮静化することはあるのでしょうか。たとえ鎮静化しても、以前の生活と全く同様の生活を取り戻すことはできないかもしれませぬ。新型コロナウイルスへの対策を継続しながらも生活拡大への対応につき皆で知恵を出しあい検討していければと思います。

引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶  
令和5年1月4日  
当センター

## 行事 クリスマス会

今年度もクリスマス会を開催しました。各部署様々な形でクリスマスを楽しみました。その模様をお伝えいたします。

◇二階西病棟◇  
二階西病棟では、グループ活動の発表としてトーンチャイムで「きよしこの夜」を演奏しました。

鳴らす順番になると緊張の様子の子の利用者様もいらっしゃいましたが、職員と一緒に綺麗な音色を奏でていました。

◇二階南病棟◇  
職員と一緒に劇を楽しみました。「シンデレラ」と「浦島太郎」グループに分かれて発表しました。衣装が皆さんとてもお似合いでファッションショーのようでした。

◇三階西病棟◇  
「アナと雪の女王」の映像に合わせてそれぞれの役を演じていました。映像と動作がマッチしていて、アナ雪の世界観を全員で楽しみました。



トーンチャイム演奏中



シンデレラ



アナと雪の女王

◇三階南病棟◇  
病棟の中に入るとテーマパークのようになっていました。映像・音楽・アトラクション・ポップコーンの匂いまで再現されていて、日常とは違うひとときを満喫されていました。



ポップコーンのいい香りが漂っています

◇通所・乳幼児通所◇  
一週間クリスマススイークでした。クリスマスにまつわる物語を見てからの点灯式。サンタクロースの登場に、興味深々な方や不思議そうな顔をした利用者様もいました。(療育部 谷家)



サンタクロース登場

## 行事 還暦を祝う会

今年度、還暦を迎えられた利用者様は三名いらっしゃいました。以前は全体行事で行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度からは各病棟でお祝いしています。その様子をご紹介します。

H様が七月に還暦を迎えられました。還暦を迎えるにあたって、ご本人に文字盤を使用して要望を伺うと、食に関しては、牛カレーとすき焼きを食べたいこと。還暦を祝う会の日には、おやつでバナナのパウンドケーキ、おやつでバナナのパウンドケーキとビールなどを提供してもらおう予定にしました。

会で行いたいことを伺うと、O.Tのリハビリで行っているテレビゲームを皆でしたいという要望だったので、その要望を盛り込んだ企画を立てて還暦を祝う会を行う予定にしました。

七月二十七日の還暦を祝う会は、新型コロナウイルス感染症の関係で延期になってしまいました。しかし、お食事とおやつは予定通り召し上がることができました。両日のメニュー共にお肉の追加があり、大変喜ばれていました。延期になった還暦を祝う会は、感染症対策を講じて九月十二日に開催しました。キャプテン翼になりきって登場し、還暦者として紹介、お祝いをしてもらい記念品をもらってうれしそうにされていました。ご本人の要望したテレビゲーム大会では六戦全勝と他を寄せ付けない強さで圧勝でした。会の延期はありましたが、食べ物ややりたいこと等、ご要望に沿って還暦を祝うことができました。ご本人に感想を伺うと笑顔で大きな声で返事をされ、大変満足された様子でした。(三階西病棟 藤崎)



ご要望通りのメニューに喜ばれています

十一月と十二月に行われた学会・協議会のご報告です。

第四十八回 日本重症心身障害福祉協会 東日本施設協議会

令和四年十一月十一日に日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会が開催（WEB）されました。

まず、「当事者目線の支援について」というテーマで、最初は、神奈川県福祉子どもみらい局の平野潤一さんより「神奈川県当事者目線の障害者福祉推進条例について」という題でお話があり、次に、東洋大学教授/やまゆり園意思決定支援専門の高山直樹先生から、「利用者目線の意思決定について」講演がありました。神奈川県では津久井やまゆり園での事件を契機に、当事者目線の障がい福祉を実現するために条例が制定されたことと、平野さんより制定までの経緯と概要につき説明があり、高山先生からは、「当事者目線とは利用者」と格闘しつつ、その関係を取りかえりつつ、本質的な支援を探求すること」「しかた

がない、いい子にならない」、「あきらめが人権侵害・虐待につながる」などの指摘があり、最後に「今日集まっている皆さんは、かけがえのない利用者の尊厳、生命、生活を護っていく「要」であり「しかたがない」を使わない、社会を変える支援者となる」とことを期待するとまとめられました。

我々も五年前から意思決定支援ワーキンググループを立ち上げ、入所利用者の意思決定支援につき勉強をし、また実践につなげてきました。今回の講演は今後の活動にとっても参考になるものでした。昼には総会が開かれ、次期会長として仙台エコー医療療育センター長の天江先生が承認され、また次期開催担当施設として茨城福祉医療センターが紹介されました。午後には、「医療型障害児入所施設及び療養介護施設における意思決定支援」「医療型障害児入所施設における移行支援について」「with コロナに対するこれからの施設運営」「災害時のBCP作成と運用について」と今関心の高い様々なテーマで講演を行うことができました。（院長 岩崎）

第四十七回 日本重症心身障害学会 学術集会

令和四年十二月一日から二日間に渡り、江東区有明のTFTホールで「日本重症心身障害学会学術集会」が開催されました。コロナ禍ではありませんが、当センターからも多くの職員が参加しました。今大会のテーマは「重症心身障害児者の原点到る医療、福祉のこれから」で、興味深い演題も多く寄せられています。療育部からは「療育スタップが独自に工夫しているケアの実際」と「重症心身障害児（者）施設で勤務する看護師と支援職員の仕事に対するやりがい」「気管切開を持つ重症心身障害児（者）の気道の加湿状況と加湿方法の検討」の三題の研究報告を行いました。

今後も研究を継続していくことでこれからの医療・福祉を支えていきたいと考えます。（療育部 高橋）



療育部発表者の皆さん

祝 開設記念日

平成十七年十二月一日に開設した当センターも、十八年目に突入しました。

今回は、毎年開設記念日に向けて取り組んでいるリハビリテーション科紙すきグループと栄養科の当日のお祝い膳をご紹介します。

◇ 紙すきグループ ◇

リハビリテーション科作業療法部門では、利用者様の興味や身体機能に合わせて様々な活動を行なっています。今回は「紙すき」をご紹介します。コロナ禍以前はメンバーがグループで分担した作業を、現在は個別で行っています。

紙すきは、牛乳パックのコーティングをはがして細かくし、ミキサー粉砕した紙をすきます。すき工程のあと、水分を取ってプレスして完成です。各工程は、作業を簡素化できる機器の利用やシュレツダー、電動はさみ、ミキサー、ロボットアームをスイッチで操作するなど環境設定をしています。



スイッチでミキサーを動かしています



牛乳パックを裁断しています



おめでとう

こうして作った再生紙は、十二月一日の開設記念日のお祝膳にカードとして添えられます。今年度のテーマは「和」。色や風合い、手作りの良さを感じて貰えると幸いです。これからの趣向を凝らして楽しんでいただけるよう活動を継続して行きたいと思えます。（リハビリテーション科）

◇ お祝い膳 ◇

開設記念日のお食事は、毎年必ず「まぐろ」を提供しています。これは、おめでたい食材であり、まぐろの脂が口腔内のあたたかさで溶けることにより食べやすく、そして何より利用者様が好きな食材だからです。生魚の提供期間は冬期だけに限られています。久々のお刺身に皆様は大変喜ばれていました。（栄養科）



メニュー紹介  
二ごしめ・煮うかん  
一きざみ汁・ちまみ汁

リハ科 連載コーナー

今年度は、リハビリテーション科が一年間連載記事を担当しています。今回は、理学療法部門の感染対策についてご紹介します。COVID-19が世界に拡大してからは三年が経過しようとしています。ワクチン接種や薬剤開発も進み、少しずつ世の中の生活制限が緩和されています。

今回、理学療法部門ではリハビリ業務を行うにあたり、どのような感染対策を講じているかについてご紹介します。理学療法室は空調で空気が循環されており、特別な換気は行っていません。職員の普段の感染対策は、アイシールドとマスク、手指消毒です。リハビリ中に使用する器具や玩具は共有の物なので、使用の都度アルコール拭き消毒を行っています。

第七波の爆発的な流行に伴い、二〇二二年八月からはセンターの感染拡大防止策が強化され、同じ週に二病棟を行き来しないよう一週間同じ病棟の入所者と理学療法が実施できるように予定を組んでいます。



病棟内で歩行練習中です。

東部あれこれ

秋から初冬にかけてのセンターの動きです。新型コロナウイルスの感染者数が十月中旬から再び増え始め、東京都も「医療提供体制が逼迫し始めている」（二十二日発表）として、二十二日から、センターではインフルエンザも含めた感染予防に努めています。

【十月】

九月に続いて四日から七日まで「お月見会」が開かれました。四階のテラスで涼しい夜風を感じながらのゲームや、きれいに飾りつけられたお月様や花火の映像、夜景などを楽しみました。雨の日もありましたが、プレイルームを会場にして、お祭り気分を味わいました。

十九日と二十六日には「日本橋・銀座」や「浅草・東京スカイツリー」界隈をバスで巡る今年度最後の病棟遠足が行われ、街のにぎわいを楽しんできました。

【十一月】

七日から「復職支援研修」が開催され、看護師の資格などをお持ちで現在仕事をされていない方たちが実習を行いました。また、二十九日からは武蔵野大学の看護実習生を受け入れました。

【十二月】

一日は当センターの開設記念日でした。栄養科による心のこもった「お祝い膳」をいただき、十七周年をお祝いしました。



恒例のクリスマス会。演奏や劇、テーマパークなどを楽しみました。サントクロースが登場すると、驚きの表情をする利用者様へプレゼントが配られました。（事務局長 松浦）

【訃報】有馬正高先生逝去

初代東京都立東部療育センター院長で名譽院長でありました有馬正高先生が去る令和四年十二月十二日逝去されました。九十三歳でした。

知的障害福祉連盟会長など歴任され、日本の障害児医療や福祉に多大な貢献をされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（院長 岩崎 裕治）わか草では、四月一日発行の六十六号で追悼記事を掲載する予定です。（広報委員会 事務局）

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

